



【研究内容】

心理学研究・心理学教育の意義

【研究目的】

心理学研究の効用と限界

－ 研究の面白さと難しさ－

【今後の展開】

- ①ヒトとモノのかかわり方についての心理学からのアプローチ
- ②モノ情報の取り込み方の特徴（感覚尺度構成、物理的刺激の受けとめ方の関数化）
- ③種々の評価法（特に、教育評価）の在り方

【主な研究テーマ／実績テーマと内容】

●「心理学教育の実践」のメタ化

全学共通の一般基礎科目として心理学を初心者にもどのように伝えるか、更には教育実践から得られたデータを、新たに心理学の研究として行う際の効用と限界について明らかにする。

●「新環境適応」

生涯発達心理学において各発達段階の移行期は新環境との出会いである。移行の際に生じる不全感や不適応の問題を環境的側面と個人の主体的側面の両面から考察する。

●「知覚判断」の発生機序

わたしたちは物理的対象を感覚受容器官を通して知覚しているが、それは単なる外界のコピーではない。そこには主体内部の判断系が関与しており、そうしたフィルターを通して情報を受け止めていると考えられる。物理的対象をどのように感覚として受けとめているのか、物理量と感覚量にはどのような関数関係が存在しているのかを明らかにする。

主な著書・論文

- ・心理学へのいざない－研究テーマから語るその魅力－ 2012 北大路書房（共監修）
- ・心理学教育におけるFD実践事例報告・リレー講義の試み 2009 山口大学教育学部研究論叢 59 pp.79-83
- ・心理学からみた教育の世界 1994 北大路書房（共著）
- ・人生移行の発達心理学 1992 北大路書房（共著）

【企業との共同研究の実績】